

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 29日

事業所名 沖縄コロニー児童デイサービスみやぎ (在籍6名)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6名			室内・外出組や低学年・高学年等の2グループに分かれた工夫をしている。	天井の高さがやや低い為、次年度はボール等を使った運動レクは、体育館等を借り、広い場所での集団活動も取り入れていきたい。
	2	職員の配置数は適切である	5名	1名			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6名			出入口は段差もなく、トイレも車椅子での利用が可能。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6名			毎日の個別記録記入時を利用して振り返りを行っている。	毎日の振り返りを個別記録の際に職員で共有している。また月に1回のミーティングでも共有。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5名	1名			毎年のアンケート結果にて、次年度の事業所目標や改善に繋げる研修を職員全員で決める事ができるので、これからもたくさんの意見が頂けるよう精進していきたいと思います。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6名			自己評価表の集計を沖縄コロニーホームページにて公表し、保護者の皆さんへも配布を行います。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6名		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5名	1名		月に一回のミーティングで、その時の職員の課題に対しての勉強会を取り入れています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6名				保護者、相談支援専門員、学校等と連携をとりながら、ニーズ・課題を分析し、職員間で共有認識がしやすい計画書が作成できるようレベルアップを目指します。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6名				
適切な支援の	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6名			立案をする際に職員で意見交換をしながら決定している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5名	1名		毎月プログラムを振り返り、固定化しないようチェックしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5名	1名		朝からの利用の際はマイクロバスを使い、日頃行けない所への社会科見学を取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6名			臨機応変な対応ができる様、必要であれば計画の見直しをその都度検討している。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6名			業務始めの打ち合わせは毎日行い、昨日の振り返りを行い、注意点を話し合っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6名			ヒヤリハットがあった時や記録記入時、その都度話し合い共有している。	日々の小さな気づきを話し、意見を出し合えるよう努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6名				記録のつけかたに個人差がある為、正しい記録の付け方を再度勉強会にて振り返り、改善につなげる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6名			職員間で各児童年に2回実施を行い、検討事例がある時はその都度見直しの為の話し合いを持っている。	職員で、児童の実態や支援について共有する為の話をする事で、自身の児童との関わり方の振り返りの機会になっている為、今後も続けたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5名	1名		アセスメントから得た情報をもとに、個々の児童にあった活動を組み合わせている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6名			児童発達支援管理責任者が参加し、会議録を職員へ伝達、共有しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6名			年度初めの学校説明への出席。申し送り時に日々の確認。イレギュラー時には、いつでも連絡がとれるよう配慮。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4名		2名	医療ケアの対応児童はいないが発作等の対応マニュアルを作成し、共有している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6名			同事業所の児童発達支援事業所間との共有と相互理解の機会は持っている。	今後はこども園等との情報共有も積極的に持てる様、努めたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4名	2名		積極的に情報提供を行っているが、学校との情報交換が先にある為、移行先からの依頼は少ない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1名	5名			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4名	2名		地域の児童が集まるイベントや公園等へは積極的に参加している。	近隣の学童クラブや児童館との交流については、機会を作れるよう、今後調整していきたいと思えます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		3名	3名		次年度は積極的に参加できるよう努めます。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5名		1名	申し送りの際にデイでの様子を伝え、変化がある時は報告し、家庭での気付きの伺いや様子を確認している。	視点の違いはある為、職員間でのすり合わせやミーティング実施で話し合い、方向性や課題を共有できる様、努めています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		3名	3名		保護者からの意見等も確認しながら、今後の提案を検討する。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6名				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6名			相談しやすい環境や関係性が保てるよう心がけています。	気軽に相談ができる様な環境づくりを引き続き努めていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4名	2名		今年度は開催予定でしたが、コロナ・インフルエンザ等の流行が予定していた開催日程と重なり、書面だけの説明になってしまいました。次年度は5月頃に予定します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6名				「直接言えない保護者もいるのではないか」の想定で、意見箱を設置しているが、電子化の普及により、意見箱の設置方法や場所を、保護者の意見を参考に検討したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4名	2名		電子システム「コドモン」にて発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6名				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6名				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1名	3名	2名		次年度は積極的に招待ができるよう計画しています。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		6名			防犯・感染マニュアルを次年度にむけて新しく作成中です。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6名			年に2回実施しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6名			月1のミーティング時に虐待防止について研修する機会を取り入れている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5名	1名			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3名	2名	1名	今年度該当児童なし。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6名			ヒヤリハット報告書に沿って話し合いを行い、繰り返さないよう、意見を出し合っています。	